Review
Conferences & Lectures
Research Activities

［東洋文庫アジア資料学研究シリーズ　2014 年度］
西洋古典籍書誌講習会

西洋書籍と東洋研究 II

1　概要

昨年度に引き続き「東洋における西洋書籍」をテーマに，日本と中国および東南アジア研究における西洋書籍について資料学的アプローチから講義をした。

第１日は趣旨説明に続き３つの講演を行った。まず，濱下武志氏による「東洋文庫と洋書――モリソン洋書――」では，モリソン一家とモリソン・コレクションについて概要と時代背景を知り，同コレクションの資料的価値と利用方法，その歴史的意義について考える。モリソンパンフレット，日記，書簡などの資料を実見し，モリソンが収集した旅行記と航海記を統計学的に分析した成果から，近代アジア各地の地域研究における資料的価値を把握する。

次に，ピーター・ボーシュバーグ氏の「Admiral Cornelis Matelieff de Jonge as an Early Visionary of the Dutch Empire in Asia, c. 1605–1620」では，マテリエフ提督の書簡や文書から，東南アジア諸地域をめぐってオランダがイベリア諸国と繰り広げた攻防と東南アジアでの勢力拡大を導いた経緯を知り，近代東南アジア地域の事情を明らかにする。個人の文書が歴史を明らかにし，記録のない地域の事情を知る有効な手段として利用できることを理解する。

牧野元紀氏の「キリスト教資料にみる東南アジア――近代ベトナムを中心に――」では，近代ベトナムにおけるキリスト教資料と研究史の動向を概観し，キリスト教がベトナムに与えた影響と重要性について考える。また，漢文とチュノムで表記された『大南寔録』と，関係する洋書とを実見する。

第２日は２つの講演と総合討論を行った。松井洋子氏の「蘭学と日本学――オランダ商館が仲介した書物と情報――」では，近世から近代の日本におけるオランダ語文献を中心に，資料のもつ価値を認識する。東洋文庫所蔵の書籍を用いて，日本事情のヨーロッパへの紹介に介在した書籍と翻訳の情報発信について考え，トーマス・サーモンの著書など複数の資料における「出島」や結婚式などの挿絵を実見して，ヨーロッパの日本に対するイメージを把握し，洋書を用いた日本研究の方法を理解する。

江南和幸氏の「刊本用紙の比較分析から眺めたアジアとヨーロッパの出版文化」では，紙と挿絵について，中世から近世にかけて出版された西洋の書籍と日本や中国の書籍とを比較することにより，アジアとヨーロッパの出版事情を明らかにする。ケンペルやツンベリの出版物の紙が日本製や中国製であったこと，挿絵に描かれた植物がヨーロッパの植生を変え造園に影響を与えたことなど，具体的事例を通してアジアとヨーロッパの交流を見ていく。

最後の討論では，講義に関する質問に加え，書誌学研究の現状と発展性について講師と受講者の間で意見が交わされ，東洋文庫の今後の課題について貴重な提案が提起された。

2　プログラム

第１日　９月 21 日（日）　東洋における西洋書籍 I

10：00 ～ 11：50　趣旨説明：東洋文庫と洋書――モリソン洋書――
　濱下　武志（東洋文庫研究部長）
13：00 ～ 14：50　Admiral Cornelis Matelieff de Jonge as an Early Visionary of the Dutch Empire in Asia, c. 1605–1620
　Peter Borschberg（シンガポール国立大学教授）
15：10 ～ 17：00　キリスト教資料にみる東南アジア――近代ベトナムを中心に――
　牧野　元紀（東洋文庫主幹研究員）

第 2 日　10 月 4 日（土）　東洋における西洋書籍 II
10：00 ～ 11：50　蘭学と日本学――オランダ商館が仲介した書物と情報――
　松井　洋子（東京大学史料編纂所教授）
13：00 ～ 14：50　刊本用紙の比較分析から眺めたアジアとヨーロッパの出版文化
　江南　和幸（龍谷大学名誉教授）
15：10 ～ 17：00　総合討論
　司会：濱下　武志

3　講演内容

東洋文庫とモリソン・コレクション

濱下　武志
（東洋文庫研究部長）

モリソン一家とモリソン・コレクションについて概要と時代背景を知ることで，同コレクションの史料的価値と利用方法，その歴史的意義について考える。具体的にモリソン文庫の旅行記・航海記に関する資料を取り上げ，資料研究における課題を提起する。

1. モリソンとその時代
略年譜，義和団の乱略年表，地図（義和団の乱時期，北京外交官区（東交明巷）とモリソン自宅・防衛線の縮小）

2. モリソン・コレクション
1）モリソン・コレクションの構成と内容：20 年間のコレクション
2）Asiatic Library：北京外交官区「東交明巷」の自宅
3）規模：書籍 24,000 冊　地図・銅版画・絵画 1,000 点
4）内容：多分野
5）地域：中国，朝鮮，満洲，蒙古，シベリア，中央アジア，チベット，東南アジア
6）言語：英，仏，独，露，蘭，伊，拉，西，葡，瑞，丁，波，匈，希，芬など
7）構成：書籍
①110 種以上の定期刊行物
②東方見聞録，辞書類，日露戦争関係，西洋宣教師による中国観察，動植物，地理・考古・資源
③7,000 冊パンフレット

④中国とモリソン文庫：翁文灝，中央研究院近代史研究所資料館（台湾）
⑤マニュスクリプト，マカートニー使節記録
⑥その他

3. 東洋文庫の設立とモリソン文庫の拡大
1）洋書・日本関連，漢籍，ペリオ・スタイン文書複製，キリスト教関係資料
2）研究地域の増加：満蒙・中央アジア・ペルシャ・西アジア・インド・南洋

4. 東洋文庫の現在
1）民間の研究図書館：岩崎久弥
チェスター・ビーティ・ライブラリー，ハンティントン・ライブラリー
2）東洋文庫ミュージアム
3）モリソンII世コレクションとヘッダー・モリソン

使用資料：
モリソンパンフレット，ミッチェルライブラリー所蔵のモリソン日記および書簡など

The Value of Admiral Matelieff's Writings For Studying the History of Southeast Asia, c.1600–1620

Peter Borschberg
(National University of Singapore)

This lecture examines the letters and memorials of Dutch Admiral Cornelis Matelieff de Jonge whose recommendations arguably set the stage for the first Dutch Empire in Asia.

1. Introduction
Cornelis Matelieff de Jonge, or Cornelis Junior
Dutch presence in Southeast Asia

2. Matelieff's voyage to Asia, 1605–8
Commercial and military purposes
Attacks on Portuguese positions
Siam Embassy's visit to Europe

3. Synopsis of Matelieff's writings
Journael ende Verhael (Journal and Narrative)
Memorials
Letters (official & private)

4. Evaluating the documents
Period of transition VOC finding its feet, coping with hybrid identity
Proposals

Asia's polities
Agency of the rulers

5. Proposal
Monopolize supply of clove, nutmeg and mace and dump pepper
Found rendezvous or permanent base, appoint governor-general

6. VOC shifts attention South, the Sunda Strait

7. Diplomacy & International law

8. Working of Malay polities

9. 4 Johor princes
Agency of the Malay rulers

10. Batu Sawar, the Johor capital

11. What about Japan and the Japanese
Residence of 150 Japanese Muslims, Trade of silver from Japan

12. Concluding Thoughts

キリスト教資料にみる東南アジア――近代ベトナムを中心に――

牧野　元紀
（東洋文庫主幹研究員）

近代ベトナムの発展に関与したキリスト教資料の紹介と，キリスト教からみたベトナム史の研究史の動向から，資料の重要性と問題点および利用方法について考える。

1. はじめに：東南アジアにおけるキリスト教とは？
1）主要宗教だが，国民大多数の宗教ではない
2）大航海時代のスペイン・ポルトガル両国の来航がカトリック宣教のきっかけ
3）近代における欧米の政治・経済・軍事的進出と関わりをもつ

2. 東南アジア史研究におけるキリスト教資料
貴重な文字資料，現地資料検証

3. ベトナム史研究における歴史資料（一次文献）
1）王朝記（行政･司法文書，土地台帳，家譜，神勅，金石文，私家文集など），前近代～仏領期（漢文･チュノムの『大南寔録』），仏領期以降（フランス語・クオックグー⇒編纂者（権力者）のバイアス）

2）1990 年代～ 2000 年代，パリ外国宣教会所蔵資料の公開（仏語，西語，ラテン語）
従来の現地語資料とは異なる世界を描き出す⇒教会関係者のバイアスに注意

4. ベトナムとキリスト教
1）日本との関係　天草本「ドチリーナキリシタン」
2）歴代の現地政権によるヨーロッパ人宣教師，ベトナム人司祭・信者に対する弾圧激化。
3）弾圧停止と布教・信仰の自由を求めて，フランス・スペインが軍事介入（1858 年）
4）フランス植民地期に安定的成長

5. ベトナムのキリスト教史研究資料
手稿：パリ外国宣教会（MEP）文書館所蔵資料（パリ），イエズス会文書館所蔵資料（ローマ）
刊本：『信仰普及協会年報』*Annales de la Propagation de la Foi*，『イエズス会士書簡集』*Lettres Edifiantes et Curieueses* など

6. 成果の実例
1）1990 ～ 2000 年代，MEP 資料を用いて論考多数。ベトナム史研究に新たな地平を開く。
2）弾圧主体のグエン朝体制内にキリスト教信者の高官がいたことを指摘。
3）ベトナム人聖職者の最高位であった教区司祭の養成と役割を解明。

7. むすびにかえて：キリスト教の重要姓と問題点

使用資料：
Historia et Relatione del Tunchino e del Giappone con la vera Relatione ancora d'altri Regni（図 1），『大南寔録』

図 1　Marini, P. Giovanni Filippo de: *Historia et Relatione del Tunchino e del Giappone con la vera Relatione ancora d'altri Regni*, Rome, 1665 年（（公財）東洋文庫所蔵）

蘭学と日本学――オランダ商館が仲介した書物と情報――

松井　洋子
（東京大学史料編纂所教授）

近世の日蘭関係にみる書物の交流と，東洋文庫所蔵のオランダ語書籍からわかる日本情報のヨーロッパへの紹介を通して，オランダ商館が仲介した書籍の歴史的意義と資料価値について理解する。

はじめに

1. 近世の日蘭関係
   - 日本とオランダの出会い：リーフデ号の来着，平戸商館の開設，長崎への移転
   - 「鎖国」とオランダ：「四つの口」「通商の国」
   - 出島：オランダ東インド会社の日本商館，貿易のあり方，出島と関わる人々

2. 蘭学と書物
   - 西洋知識の受容の特質：書物による受容
   - 運ばれてくる方法　かなりの数量：献上品・贈物，注文（誂物）・個人荷物
     →ただし，東洋文庫のオランダ語書籍にはあまり入っていない　そのことの意味？
   - 江戸時代の日本で欲しがられた洋書の特質
     ヨーロッパの学術を学ぶためのテキスト，オランダ語の書籍・辞書
   - 東洋文庫の蒐書の特質とその中でのオランダ語書籍
     モリソン文庫，岩崎文庫とその後の蒐集

3. 日本に関する著述
   - 日本滞在者の情報発信
     イエズス会士の記録，オランダ東インド会社の情報網，旅行記・滞在記，日本研究
   - 日本についての著述とその翻訳→東洋文庫の貴重書から

   1）アルノルドス・モンタヌス『オランダ東インド会社日本遣使録』（1669）
   2）エンゲルベルト・ケンペル『廻国奇観』，The History of Japan（『日本誌』）英語版
      ヨハン・カスパル・ショイヒツァー蘭訳版，クリスティアン・ウィルムヘルム・ドーム独語版
   3）トーマス・サーモン『万国民の現代史』
      マティアス・ファン・ゴッホ増補蘭訳（1727/28）オランダが日本情報付加，「出島図」
   4）イザーク・ティツィング『日本における結婚と葬儀の式典』（仏語，1819）
      『歴代将軍譜』（仏語，1820），『日本風俗図誌』（英訳，1822），『日本の諸特徴』（蘭訳 1824–1825）
      『日本王代一覧』（仏語，1834）

4. おわりに：書物と情報，そして翻訳

使用資料：

Kämpfer, *Geschichte und Beschreibung von Japan*（図 2）
Salmon, *Modern History; Hedendaegsche Historie*

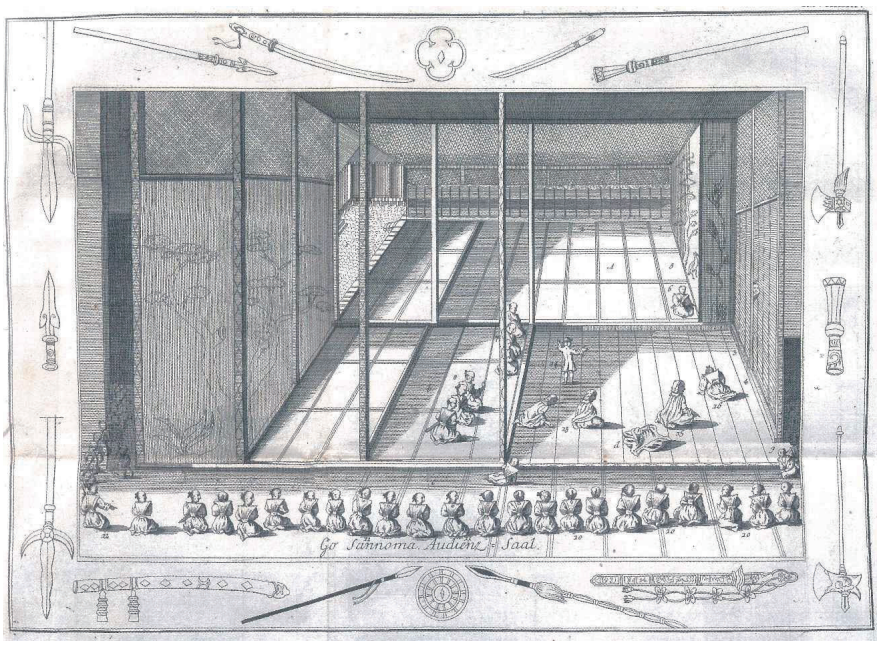

図 2　Kämpfer, E.: *Geschichte und Beschreibung von Japan*, Lemgo, 1777–1779 年
（（公財）東洋文庫所蔵）

刊本用紙の比較分析から眺めたアジアとヨーロッパの出版文化

江南　和幸
（龍谷大学名誉教授）

中世から近世にかけて出版された日本，中国，西洋の書誌に使用される紙の分析を通して，書物と紙の「格」の地域別相違点と，東洋と西洋の出版文化の接触と影響，および発展について考察する。

1. 書物の「格」と紙の「格」
   1）日本：書物に社会の階級構造が反映
      ・公家・貴族の歌集の写本，「奈良絵本」（芸術作品）は雁皮紙（斐紙）
      ・市民階級の木版「彫版印刷」は楮紙，「浮世絵」（出版物）は奉書（楮紙）
   2）中国：「刊本」の中の「格」と紙の選択肢の多さ
      竹紙，桑樹皮の紙，楮紙，宣紙
   3）ヨーロッパ：紙の種類ではなく，工房（透かし watermark）と大型の紙の使用が書物の「格」

2. 紙から眺めたヨーロッパとアジア・日本との出会い
   1）マルコ・ポーロの中国（元）の紙幣と桑の紙
      ・751 年タラス衝突で，中国の「ぼろ布原料製紙法」がアラブ→イタリア→ヨーロッパへ伝播
      ・ロジャー・ベーコンによるローマ法王への報告（Opus Majus）で中国の製紙法が伝播，非公開文書
      ・マルコ・ポーロによるヨーロッパの諸言葉での書写本に中国（元）紙幣と桑の紙の記載
   2）イエズス会宣教師が日本に伝えた活版印刷・宣教師たちが遭遇した和紙
      ヨーロッパのプレス印刷機，「キリシタン版」書籍，朝鮮活字の導入→古活字本の誕生
   3）日本の古活字本の出現と撤退
      光悦本（嵯峨本），雁皮紙，手書きの挿絵とかな文字の活字印刷，変体かなの活字製作，朝鮮活字の適用。

彫版印刷に戻り，江戸時代の出版業の隆盛を生む。

4）キリシタン版の用紙分析：上質の雁皮紙

5）キリシタンが出会った和紙余話：「鳥の子紙」の輸出，レンブラントの銅版画（雁皮紙）

3. 彩色印刷術の東西の違いと紙の違い：ヨーロッパの大型彩色本と江戸彩色版本

1）多色刷り印刷はヨーロッパが最初？キリシタン版『サクラメンタ』は最も早い二色刷。

2）東洋文庫コレクションに見るヨーロッパの豪華大型彩色本

3）出版物としての版画：浮世絵は見当の発明による多色刷り，西洋版画は 19 末～ 20 初に多色刷り

4. ヨーロッパに伝わった江戸書物事情の情報

・中村惕斎『訓蒙図彙』，Kämpfer『日本史』，Thunberg『Flora Iaponica』，飯沼慾斎『草木図説』

・薄い中国の紙を大量に買い求めて，ヨーロッパで出版

使用資料：

Kämpfer, *The history of Japan*

Thunberg, *Flora Iaponica*

Braam-Houckgeest, *Icones plantarum spontè Chinâ nascentium*

Gould, *The birds of Asia*（図 3）

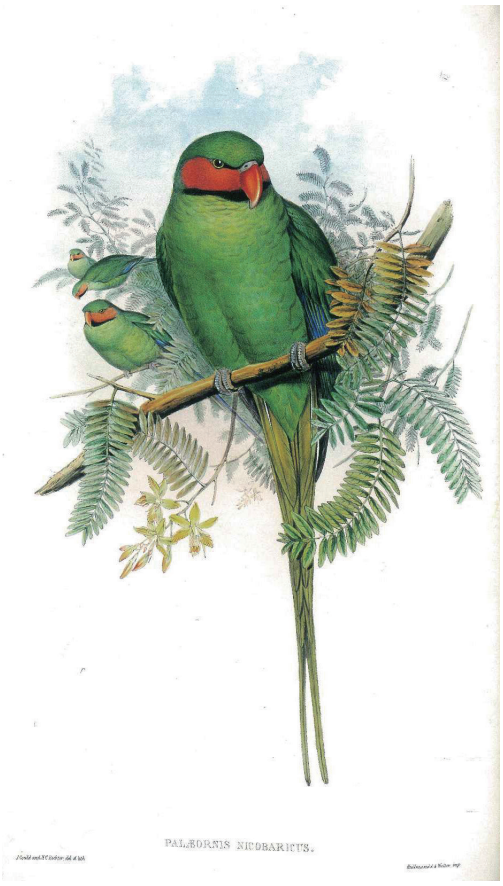

図 3　Gould, J.: *The birds of Asia*, London, 1850–83 年
（（公財）東洋文庫所蔵）

（文責：東洋文庫研究部　宇都宮　美生）